

有感二首 : 文苑

著者	松浦, 寅三郎
雑誌名	龍南會雜誌
巻	132
ページ	72-72
発行年	1909-10-30
URL	http://hdl.handle.net/2298/5798

「あはれ薄命のフランチスカ！」

私は低く斯う私語つひやいた。

風はこの聲を捕へて、廣々と荒れ果てた草原の、物淋い墓所へと運んだ。その聲は、新しい土饅頭の側わたりなる垂柳すいりゅうに留り、枝間えだまに籠つてなほ泣いて居る。

「あはれ薄命のフランチスカ！」

(終り)

有感 二一首

松浦寅三郎

勸學兼勤儉 皇謨萬古尊
唯知天職重 禍福不須論
此地敦風教 學徒多滿門
臨饗莫他技 唯有赤心存。

長詩

熊本市郊外景物詩

江中紫秋

秋の日午後二時過ぎの郊外に行みしとき、